

黄金律

知っておきたいキリスト教のことば (29)

わたしは昔、数学が専門でしたので、「おうごんりつ」と聞くと、「ああ、美しい長方形のことか」と思ってしまいます。しかしそれは「黄金率（黄金比）」のことで、「りつ」という漢字が違います。「黄金律」の律とは、「おきて」、「法律」、「さだめ」といった意味を持つ語です。

この「黄金律（ゴールデンルール）」とは、宗教や哲学、道徳の中で語られる、ある倫理的な内容を指します。

例えば孔子は論語の中で、「己の欲せざるところ、他に施すことなかれ」と語ります。またイスラームのムハンマドは「自分が人から危害を受けたくなければ、誰にも危害を加えないことである」と言います。さらに旧約聖書続編の中にも、「自分が嫌なことは、ほかのだれにもしてはならない（トビト記 4 章 15 節）」という言葉があります。

それらの言葉に共通しているのは、自分が嫌だと思ふことは相手にもしないようにしましうと、おこないを禁止していることです。つまり否定的な表現だともいえます。

それに対してイエス様は、「人にしてもらいたいと思うことは何でも、あなたも人にしなさい（マタイ 7: 12）」と言われます。つまり積極的な行動を促しているのです。

自分が人にしてもらいたいことを、他の人にする。家族や仲の良い人たちにだったら何とかできるかもしれません。でも全く知らない誰かのために、あなたは愛の行動をおこないなさいと、イエス様は言われているのです。

「あなたの敵を愛しなさい」、その言葉と共に、わたしたちはいつもイエス様が語られた「黄金律」に心を向けたいと思います。



次回は「奥義」です。お楽しみに。